

題材 「ごんぎつね」 10 時間中の第2時

(1) 学習のねらい

前時にごんぎつねに初めて触れ、ごんが兵十に償いをしていく姿やごんが撃たれてしまった時の、ごんと兵十の気持ちなどに興味を持った児童が、ごんや兵十の気持ちの変化を意識しながら物語を読み進めていける様に、作者や物語の時代について触れ、序盤のごんの環境や感情についての本文の記述をもとに、ごんはどのようなキツネなのか考え、ごんが子どものキツネではなく大人のキツネであることに気づくことが出来る。

(2) 本時の学習材

ごんは子どものきつねか大人のきつねかという問い

- 冒頭二段落の文を読み、ごんがどのようなきつねであるかについて考え理解した子どもたちは、ごんが子どものきつねであると考えよう。その時に、ごんは本当に子どものきつねなのかという問い訴える。
- 本文ではごんは「ひとりぼっちの小ぎつね」と書かれている。「子」ではなく「小」と書かれていることに着目すること、ごんの子どもとは思えないお葬式に関する知識や村人の情報について着目することで、ごんが子どものきつねではなく、大人のきつねであると子ども達は気づくだろう。その気づきにより、ごんが行ってきたいはずらはとんでもないことであるなど、今後物語を読み進めていく上で重要な意味を持つてくる。

(3) 学習の展開

過程	学習活動	予想される子どもの動き	時間	指導と評価
課題把握 展開	1 前時の復習 前時の感想の共有をする	・やっぱりみんな6場面が心にひびいたんだ	5	・前時に子どもたちを書いてもらった、ごんぎつねを読んだ感想から子どもたちがどんなところに興味を持っているのか共有する
	2 新見南吉の生まれについて、ごんぎつねの時代背景についてしる	・そんな若い時にごんぎつねを書いたの ・90年近くまえの物語なんだ ・火縄銃とかお城とか出てきているから、江戸時代くらいじゃないかな	10	・新見南吉の生まれとごんぎつねを執筆した年について言及する。 ・ごんぎつねの物語の時代は何時であったか考える機会を設ける。 ・パワーポイントをつかい、上記の状況について児童に提示する
	3 ごんがどのようなきつねであるか考える	・ひとりぼっち ・いたずら好き ・穴に住んでいる 0子どものきつね 学習問題 ごんは子どものきつねなのだろうか、大人のきつねなのだろうか	10	冒頭二段落までの文で考えられる、ごんの様子について個々で考える時間を設けたあと、全体で共有する。 学習課題 ごんがおとなのきつねであると言える理由を見つけよう
				学習材 ごんは子どもか大人かという問い

終 末	4 ごんが子どもか大人か考え、その理由も考える。	・子どもだと思ふ ・子どもって小さいし、小さいきつねでかいているし	15	・ごんが子どもか大人か個人で考えた時間を設けた後全体で共有する。 ◦ 教師の側から大人であると思ふということを述べ、その理由を考える時間を設ける。 評価 ごんが子どものきつねではなく、おとなのきつねであることに気づくことができる (ワークシート)
	5 振り返りと感想を書く	・深く読んでみないと分からないこともあるんだな o大人のきつねだとしたら何だか物語の読み方が変わりそう	5	